

平成28年度 第2回南部町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 平成28年11月2日(水) 午前10時00分 開会
午前12時00分 閉会
- 2 開催場所 南部町役場本庁舎 2階 中会議室
- 3 出席者
・町長 佐野 和広 ・教育長 渡辺 拓雄 ・教育長職務代理者 芦澤 和彦
・教育委員 入月 一巳 ・教育委員 四條 勉 ・教育委員 望月 恵美
- 4 事務局等の出席者
町長部局 総務課長 望月 哲也
教育委員会事務局
学校教育課長 近藤 勝 生涯学習課 梶原 猛
学校教育課主幹 市川 隆 学校教育課主査 佐野 憲一
- 5 協議事項
(1) 地区教育懇談会開催について
(2) 学力・学習状況調査結果公表について
(3) 来年度教育予算関連について
(4) その他
- 6 議事経過の概要
次のとおり

1 開会 芦澤教育長職務代理者

(要旨) 第2回目の総合教育会議ということですが、子供達を支える学校・家庭・地域・行政がこれからの教育に関する指針として教育大綱が昨年度末に出されました。第1回の時も申し上げましたが、本年度それをより具体化する年になりました。南部町の将来を支える子供達が夢を描けるような、義務教育9ヶ年、さらにその先を見据えた話し合いになればと思います。

2 町長あいさつ

(要旨) 町の方は先日町議選が終わり新しい議員が誕生しました。当然、教育の分野に関しましても数々の提言をなされると思います。皆様には毅然とした態度で臨んでほしいと思います。

現在南部町を取り巻く環境は色々なところで前向きに変化しております。南部町を発展させる為の企業が興味を示したり、道路関係もだいぶ見通しがついてきました。その先には当然町外からの人達の受け入れということがあります。その時の決め手になるのは、教育、医療になります。皆さんにはしっかりとした教育体系を構築していただくことを期待しております。

3 教育長あいさつ

(要旨) 新教育委員会制度の下、総合教育会議も2年目を迎えました。本日は本年度2回目の総合教育会議ということになります。この会議は何かを決めたり、議決をしたりするものではありません。学校教育、生涯学習、生涯スポーツを含め地域の子どもの成長や大人の生きがいがいづくりに関連し、町の施策との整合性を図りながら、皆さんのご意見を伺うというのが基本になると思います。そしてこの話し合いを受け教育委員会としては、定例の教育委員会で精査し、さらに議論をしていく。それから町教育委員会の事務局は実際の事業として展開していくということになるかと思っています。

先程町長のお話の中にありましたが、これは大変大袈裟な表現かもしれませんが、町づくり人づくりという点では50年後、100年後の南部町や日本へ繋がっていく会議である。そういう認識でご議論いただければ大変有意義なものになると思います。

4 第1回総合教育会議の協議について

事務局が第1回の協議事項について説明。

5 議事

(1) 地区教育懇談会について

(事務局) 7月、8月に開催したPTA懇談会の結果説明。11月に開催する地区懇談会の日程、進め方の説明。

(教育長) 地区懇談会を11月に4地区開催する訳ですが、それは単に具申書を読み上げて質疑をするのではなく、先立って開催したPTA懇談会の結果も地域の人に理解してもらいながら議論していただくということ。またその前提にはこれからの町の人口推移も念頭に置くということで資料を用意しました。また、地域の方は小規模校の万沢小や中規模校の睦合小も含めまして、実際の授業風景というのをご存じない方も多いと思いますので、スライド等も入れながら、検討をしていただくということです。

(芦澤委員) PTA懇談会については、万沢小学校PTAの方々の関心の高さ、また意見も切実でよく考えられているなと思いました。しかし、睦合、栄は自分達の子どもには関わらないせいか関心の低さが目立ちました。PTA全体の取組として評価したい部分と残念だった部分が顕著に表れた4回でした。中身につきましては、参加された方は皆関心が高い方なので、考えさせられる意見が沢山出されました。

(入月委員) 思っていた以上に南部地区の関心が低かったというのが第1の感想です。1番関心の高い万沢地区は本当に切羽詰った問題ですが、今後富沢地区の意見をいかに吸い上げていくかというのが課題だと思います。この会議の方針のように、慎重に丁寧に聞くという姿勢で慌てないでやっていく必要があると感じました。

(四條委員) 南部地区の保護者の関心が低いと言いますか、10年後のイメージが自分の家庭に結び付かない実態がはっきりしたと思います。さらに地域の方はまだまだという事だと思います。そういう状況の中検討委員会で取ったアンケート結果を資料としていますが、関心の薄い層も沢山入っているということで、万沢の関心の高い方達と単純な比

較は難しいのではないかと思います。新たにアンケートをとるという訳にはいかないのかもしれませんが、熱心な万沢の方の意見をより汲み取って、考えていく必要があるのではと感じました。地域の方の関心度を上げていくということは大変難しいと感じていますので、お子さんがいる、お孫さんがいる、より子供達に関係のある方達の意見を効率よく集約していくことが大事であると思います。

(望月委員) P T A懇談会の進め方が非常に良かったと思います。参加者が感情的になることもありませんでした。これから地区の懇談会になる訳ですが、教育委員会の丁寧な姿勢により、地域の方から幅広く意見を聞く良い機会になるのではと思います。

(町 長) 関心の温度差についてはある程度予想していたとおりにかと思えます。富沢地区については5年後ということもございます。

少し話はそれますが、よく言われる人口減ということがございます。これは日本全体が間違いなくそういう方向に進んでいます。例えば企業誘致にしても、今アクセスは問題ありませんが、働き手がいるかどうかということがポイントです。そうした場合に私が考えているのは、海外からの人達を受け入れたいと思っております。でなければ町の発展は望めません。その場合その方達の子供への教育ということも考えて行かなければと思います。

住民の方達の一番の思いは、地域が衰退してしまうという事だと思えます。そこを如何に理解していただくかという事だと思えます。今授業風景のスライドを見ましたが、一学年20数名のクラスは理想ですね。皆さん教員OBですからお詳しいと思えますが、1番目が届きやすく効果的な人数じゃないでしょうか。それと実際に授業を受けているお子さん本人に意見を聞くというのも良い事じゃないでしょうか。

(教育長) 四條委員からのアンケートへの指摘、町長からの子供達の意見も取り入れたらどうかというお考えですが、これからさらに議論を深めていく中で、地域や年代を狭めた範囲で直接当事者となる人達への意識調査、アンケート調査も必要になってくるのではと思っております。

そういったことも踏まえまして、これから今月開催されます地区懇談会に向けて意見交換をしていただきたいと思えます。大きな課題として、まず関心を持ってもらうにはどうしたら良いかということがあります。事務局としては区長会にお願いし、各戸にチラシを配布、保育園や幼稚園の保護者には封書で案内を送付、近日にはFM告知をする予定です。

(町 長) 先程四條委員も指摘されていましたが、睦合、栄は10年後ということで関心が低い訳です。大事なことは具申案のとおり決定ということではなく、話し合いの結果変わるのもありえるということです。そのためには幅広く地域の皆さんのご意見が必要だと。そこを強烈に訴えて参加を求めていく。それでも少なければこれは仕方ないですね、参加していただいた人達で議論していくほかないと思えます。よく行政を進めていく中でオープンにしていますが、中々意見は出ないですね。しかし、決まってから色々と言われます。今回もそういう事を懸念する訳ですが、それが一番困る訳です。

(教育長) 地域の皆さんから出た意見が将来に大きな影響を持ちますよという意識は大いに持っていただきたい。それから具申案の内容について理解をしていただくという事だと

思います。色々な形でアピールしていきますが、本日ご臨席の皆さまもそれぞれのお立場で発信していただければと思います。事務局も具申書を単に読み上げるという事ではなく、色々な工夫、資料も用意しながら説明をしていこうと思います。

陸合、栄も10年後とは言っても、これまでの経過を考えると2、3年後には委員会等を立ち上げなければいけない訳です。意外とのんびりしている訳にもいかない問題です。

(芦澤委員) 実際3、4年経って陸合、栄の話しになれば富沢地区よりも加熱した議論になると思います。教育懇談会の中で教育大綱もありますので、これからの教育についてしっかりと考えていってほしいと思います。

(教育長) 教育大綱を踏まえて、将来へ向けての人づくり、将来的な教育のあり方を話し合うということでしょうか。

(芦澤委員) そういう事です。ただ人口減ということから適正規模という話をする訳ですから、その焦点はぼやけないようにしてほしい。

(教育長) 大事な問題ですね。適正規模も理解してもらいながら、教育全体の事を考えていくと。

(芦澤委員) 今回は適正規模のを中心に懇談会を開催すると思いますが、教育委員会としては工夫を凝らして次回以降もやっていってほしい。

(教育長) 芦澤委員の意見を踏まえて、事務局の方でも懇談会に向けて工夫をしていきたいと思っています。その工夫は町長、教育委員の見様にご報告していきたいと思っています。また懇談会のアピール方法を更に事務局で検討していくということで、この議題を閉じさせていただきます。

(2) 学力・学習状況調査結果公表について

(教育長) 南部町の子どもの学力・体力・健康についてです。学力については私の方で取りまとめたものがありますのでご覧ください。全国学力・学習状況調査の結果ということですが、4月19日全国一斉に行われたテストです。対象は小学校6年生、中学校3年生です。教科は国語、算数、数学でA問題、B問題に分かれて実施しました。本町の結果ですが、正答率で出しております。A問題というのが基礎的な問題、B問題は応用という事ありますから難しくなります。全国平均、県平均との比較で、小学生の国語Aは全国に比べて-0.3、国語Bは-0.4、算数はAが全国と同じ、Bは全国より高い。そして中学校の国語ですがA、Bとも若干ですが全国より高いです。数学はAが-4.1、Bが-1.6ということです。この数値を見るときに文部科学省では±5ポイント以内は同等と見なすという基準がありまして、その中には収まっているという事ですが、だからと言って何もしなくても良いという事ではありません。この調査には学習状況、生活状況の項目もあり、南部町の子どもの傾向としていくつかの項目をそこに取り上げてあります。それを見ますと中学生の朝食、起床就寝の時間が全国と比較して低く、少し気になります。大変南部町らしいと思うのは、地域行事・ボランティアへの参加が全国平均と比較してだいぶ高いということです。地域と深い係わりを子ども達も持っているし、地域の人達も子ども達に関心を持っているということの表れではないかと読み取

れます。それから学習状況ですが、中学生の家庭学習で1時間以上するという項目では全国を下回っております。逆に小学生は全国を上回っておりますので、簡単に言いますと中学生はもっと勉強をなさйтеということ。それから特に中学生で目立ったのが、学級の仲間との行事、取組の達成に充実感を持っている子が非常に多いという事。あとは書くことに苦手意識を持っている子どもが全国に比べて多いことです。これが概略になりますが、後でまた詳しくご覧になっていただきたいと思ひます。

今年度教育委員会としては、結果を公表いたします。さらに各学校の校長先生と確認していますが、学力向上にむけて授業の改善や家庭学習の充実を取組という事を、保護者の皆様には学校毎にお知らせをするということになっております。学校からは、保護者の皆さんに1から5の項目を踏まえた改善策を示してもらひます。1から5というのは、ノート・資料の徹底、山梨スタンダードの徹底、解けなかった問題の繰り返しの指導、家庭学習の充実、これは保護者にも点検していただいたり、学校と頻繁に連絡をとってもらうという体制を作る事です。それから小中連携の強化を図る中で、9年間を見通した指導をすること。これらのことを確認した訳ですが、学力・学習状況調査について何かありますか。

(町長) 大事なことは、将来の夢を達成するためには日頃の勉強も大切であるという事。そのことを強く訴えてほしいと思ひます。ただ勉強しろ、勉強しろと言っても、中々結び付かないと思ひます。例えば、将来エンジニアになりたい子なら理系の教科を頑張らせるとか、社会の先生になりたいのであれば歴史をとという風に。そういう事が私は近道だと思ひます。そういう考え方というのは小中学生では中々できません。

(教育長) 目的意識を持つということが大事という事ですね。

(望月委員) 先生方の熱意というものが伝わって来ると、家庭でもやらせなければという気持ちになると思ひます。あとは家庭学習のやり方を明確に指導していただければありがたいと思ひます。

公表については、ある程度細かく公表することで親、地域の関心を持ちますし、それによって先生の責任感も出て来ると思ひます。

(四條委員) 町長がおっしゃられたように、目的、目標がないと中々勉強に励まないのかなと。もうひとつは24時間の使い方の中で、特に中学生は部活動が盛んですから、部活をして帰宅し、ある程度の睡眠時間の確保もしなければという事で、勉強の時間が無いという現状があると思ひます。そこをテスト前だけではなく、毎日頑張れるかという事です。子ども1人1人を把握して、頑張らせる事ができる体制づくりというものをもう少し研究する必要があると思ひます。それにはやはり目的意識、高校・大学だけでなくその後何になりたいのか、そのために今何をすれば良いのかという事が掴めればやれるかなという気がいたします。

学習方法としては、予習の時間が足りないかなと。予習をするには最低3時間ぐらひは必要になって来ます。全体的な学習時間の不足に加え予習の時間が不足していると思ひます。

(教育長) 全国と比較して南部町の子どもは予習する子が少ないという傾向がこの調査には出ています。

(入月委員) 初めてですよね、南部町でこういうものを公表するというのは。かなりのインパクト、反響があることを覚悟しなければならないと思います。特に心配なのが小学校は4校ありますが、中学校は南部中学校1校だということで限定されてしまうという事です。その辺に課題があると思いますが、公表する以上は今後どうしていくかという事になるかと思いますが。例えば、南部中学校の数学というものが数値的には劣っているかと思いますが、中学校というのは教科意識が凄く強い訳です。この結果を中学校の数学教師がどのように受け止めて、今後どうしていくか、そして来年どういう結果が出てくるか。そういうことを熟慮して公表していかないといけないと思います。

(教育長) 南部中学校とはさらに話を詰めていくという事だと思いますが、とりあえずの現状を皆さまに知っておいてほしいと思います。

(芦澤委員) 公表、説明責任、情報公開等がクローズアップされていますが、結果の考察、対策をこれからどう活かすかだと思います。特に現場サイドで結果の考察を授業改善であるとか家庭学習ですとかに反映し、保護者・子ども達にしっかり伝えることができれば、公表ということが色々な意味で生きてくると思います。小中学校9年間という捉えをされがちで、小学校の結果はこうだけど中学校になったらこうなったという話は往々にしてある訳ですが、小学校は全教科を担当が指導し面倒をみるのですが、中学校は主体的に自らという部分が強くなる訳です。そうした教育環境の変化部分、繋ぎの部分をどうやってうまくやっていくか。今身延高校、身延中、南部中の連携どうのという話があるのですが、町教委の所管である小中学校の連携を充実させていくことが大事であること。それは簡単なことではないのですが、それが出来れば今言われている問題が少しでも前進するのではないかと思います。

(教育長) 公表することの意味や意義、そしてその後どのように学校が受け止めて実践していくかという点。さらに改善して行く視点として、小中の繋がりが大事ではないかというご指摘もありました。実は校長会で小中連携についてこんな話が出ております。9ヶ年で学力を向上させましようという話は校長会で伝えてありますが、小中連携の具体的な案は校長先生達にも浮かんできておりません。しかし先日の話し合いの中でこんな話が出ました。中学校の先生から小学校の先生にここの部分を強化してきてくださいと、中学校の視点から小学校へ投げかけるという事が大事じゃないかと言ってくれた校長先生がありました。そしてその意見が小学校の校長先生から出たという事が私は大変嬉しく思いました。それを踏まえて、例えば中学校の数学主任が小学校の算数主任の集まりに参加して、こういう部分の力をつけて中学校へ来てくださいというような事を受けて、小学校の授業をしていくという流れを作りたいと。そんな構想を現在持っておりまして、さらに校長会で議論を重ねて、また望月正宏先生にも学力向上対策としてお願いしているところでもありますので、是非実のあるものにしていきたいと考えております。

次に体力・健康のことについてですが、実は私も詳しく知らなかった訳ですが、先日町長からお話がありまして、南部町の糖尿病患者、成人病の率が高いということです。そして子供の肥満の出現率が高いというご指摘も受けました。急遽という形ですが、やはり総合教育会議の議題に取り上げて、今できる事は何かという意見を出し合って学校

へアピールしていきたいと考え取り上げました。それでは事務局の方から概要説明をお願いします。

(事務局) 町内各校の取組、現状の概要説明。

(教育長) 教育委員会では生涯スポーツということでも取り組んでおりますが、その事について梶原課長をお願いします。

(梶原課長) 町内の生涯スポーツへの取組を説明。

(教育長) 町内の生涯スポーツ、中学校の部活動、スポーツ少年団。南部町は、非常に盛んなイメージがありますが、この現状を町長はどのようにお考えですか。

(町長) このことの起点ですが、現在南部町はもの凄く医療費が伸びております。そしてチャレンジデーを導入いたしました。体育に親しんでもらう中で町民全体が健康になればという狙いです。現在南部健康会議では、非常に密度の濃い話し合いをしております、もう8回開催し、毎回2時間以上話し合います。その中で保健師からこの数字が提示されまして、私は唖然としました。峡南地区というのは肥満、あるいは糖尿病の数値というのは高い訳ですが、その中でも頭抜けて南部町が高い。これはなんとかしなければと思い、渡辺教育長にお話しした訳です。先ほど課長達から現在の取組を聞きました。それはそれで良いのだけれど、こういう結果を受けてどうするかが主眼な訳です。現在の取組をさらに徹底するため校長先生、教頭先生にお話しして、強力に推進してもらいたいと思います。

(教育長) これは養護教諭の先生からの数字ですが、平成26、27、28年の肥満出現率です。これは南部町の小学校1年生から中学校3年生までの3年間の経過です。これは学年によって随分大きい波がありますし、同じ学年を年度別で追っていてもかなり変化があります。段々下がっていく学年もあれば、高いまま推移して行く学年もあります。ここでは詳しく触れませんが、こんな事も含めて専門である四條委員何かありますか。

(四條委員) 私が大学時代に勉強していた頃、早稲田大学の研究資料にありましたが、トレーニングは3ヶ月実施し、そして成果を検証して、効果があれば継続、なければもう1度プログラムを組み立てるというやり方がありました。そして早稲田の学生を3ヶ月トレーニングさせて成果が挙げただけけれども、1年後には元に戻っていたと。そういう結果が出ました。これを運動と食事、栄養のバランスで肥満児が出るということに置き換えますと、まあ食事はそれぞれのご家庭の様子をチェックしなければなりません、運動に関しては日常的に継続出来るかが鍵になります。私は退職してから少し痩せましたが、それはゴルフが出来るようになったからです。練習もしますし、よく歩く、1日に1万数千歩歩きます。当然維持するために食べる方も食べますが。この運動を日常的に行えるという生活習慣が身についているかどうかが大変なポイントになります。私のように退職した中高齢者というのは、外に出ないでそのままご家庭にいるという方が結構多いのではないかと思います。例えばマレットゴルフ部に所属していても活動は毎日ではなく、毎日ウォーキングをしているのも限られた人達です。家にいる方をどうにか外に出すということは中々難しいことです。チャレンジデーのような呼びかけも良いことですが、これが毎日ということになると特に中高齢者の方達には大変な難題です。したがって子ども達には運動の大切さを教え、その年代のうちから指導し、運動・食事・

休養のバランスを考えさせるというのが大切なことです。若者達も大学を卒業し就職してしまえば、そういったバランスを組み立てるのは簡単ではありませんから、町として具体的な取組方法をもう少し考えてもらいたいと思います。生涯スポーツは梶原課長、杉山君を中心にここ何年か教室・体育祭・駅伝なりを工夫して改善しています。毎回同じという事はなくて、努力されていると思います。それは大事なことです。もっと大事なことは南部町の生涯スポーツとして将来へ向けて目標の具現化がまだ十分ではない。これは体育協会のところにはありますが、町の施策と合わせて町民の健康をどのようにしていくか。そのためにイベントではなくて日常的にどのように取り組むか。毎日の生活でどのような生活習慣を組み立てていくかということだと思います。自分が好きでやる分には良いのですが、人から言われてやるというのは難しいです。子ども達も楽しくなければやりたくないという思いを持っています。陸上は楽しくないです、苦しいだけで。記録が出た時だけ楽しいのです。そうしますと、より楽しくて面白いというものを日常生活に入れていくということだと思います。

(教育長) このデータをみますと、生涯に渡って運動していく健康を維持するということが大事であるとなんとなく想像できます。梶原課長の話にもありましたが、スポーツは盛んだけど特定の人に限られてしまうと。四條先生が言われるように多くの人を引っ張り出して体力維持、健康維持のために参加してもらうためには、小中学校の段階から意識や習慣を身に付けさせなければならない。町長のお話にもありましたが、それを徹底させることです。

(入月委員) 確かにスポーツも大事、体を動かすということは健康に直結すると思います。それと同じくらい家庭においての食事でも大事だと思います。

(町長) 決定打はそこだと思います。保健師、栄養士に頑張ってもらっていて、個別に呼び出して指導するようにすれば、この数字は下がると思います。自分の経験からしても飲んで食べていると翌日の体脂肪率が高いですから、やはり食事だと思います。

(入月委員) そこで学校にいる養護教諭に個人的に指導してもらおうということが効果的だと思います。そして子どもに言うよりも、直接親に指導していくという事だと思います。そうすれば数値も下がっていくのではと思います。

(教育長) その辺のことを養護教諭に聞きましたら、肥満の子には1人1人グラフを作って子ども、親への指導はしているそうです。ただ、それを家庭がどう受け止めて、食事の改善、間食の指導をどの程度しているかは把握していないという事でした。

(望月委員) 具体的な指導があれば効果的だと思います。例えば食事に何を避けてこの品目を加えた方が良いとか、食べる順番とか、夜寝る前の何時間かは食事を避けた方が良いとか。細かい指導をしていただけると保護者の方達はありがたいのではないのでしょうか。

(芦澤議員) 小さい頃からの意識付けは大事だと思います。しかし、これが苦行にならないように。先程学校で指導をという話がありましたが、やはりまず家庭でということだと思います。どうしても子どもの好きなものを与えてしまいがちですし、バイキングなどに連れて行きますとデザートばかり持ってきます。ファーストフードも大好きですね。せっかくこの機会に取り上げた訳ですから、これをきっかけに取組んでいってもらいた

いですし、運動についても日常的に継続できるような枠組みを考えてもらいたい。

(教育長) この数値というものは、町民の方々に周知した方が良いですね。

(町 長) 広報に載せても良いですね。

(四條委員) 町の特定健診の時に、これを最初に説明していました。

(町 長) 町には元気なお年寄りも沢山いますし、90歳でも活発な方もいます。逆に私は子ども達の健康をたいへん憂慮しております。

(四條委員) 子ども達は昔に比べて有酸素運動、走る時間が減ってきていますね。心不全、突然死の関係で持久走とかマラソン大会を体育で避けているということがあります。本当は子ども達のチェックさえ徹底できれば心配は無いですけども、そういう現実が町内にもあります。部活動にも同じ傾向がみとれます。有酸素運動が減ればおのずと肥満傾向は増えていくと思います。もちろん食事も関係していますが。

(教育長) 家庭の理解、学校での習慣化、徹底化。社会全体としては幅広く、特定の人間だけではない人達が取り組めるような啓蒙活動等が必要ではないかと思えます。これは生涯に渡って関わっていく活動ということで取り上げました。

(3) 来年度教育予算関連について

(事務局) 当初予算要求の概要説明。(学校ICT等)

(教育長) ICTにつきましては、教育委員と北海道へ先進地研修に行ってきました。これは入れ替える時期とも重なっておりますので、よく検討して最大の効果を発揮する形ということで、今の提案になりました。その背景には、現場の先生方の思いや先日行ったデモの感触というものも私達は把握しております。これを使いこなすことができれば教育効果が上がるのではとも思っております。

(芦澤委員) 今現在あるものにプラスして購入という事ならば予算的な問題もあろうかと思えますが、先ほど説明のとおり更新時期であること。それと導入すれば教員の負担は増すことにはなりますが、子ども達への効果を考えると良いことだと思います。学習活動の幅が広がります。特に支援を必要とする子どもには効果的である。北海道へ研修に行った際に、たまたまPTA会長が支援員として入ってしまして、教員が分からないというような時にはすぐ対応ができるという状況もみてきました。色々な課題はあると思えますが、効果を考えますと是非導入していただきたいと思えます。

(町 長) 現在のパソコンの活動状況は。

(事務局) 小学校は調べ学習。中学校につきましては、技術の授業として教育課程に組み込まれています。1クラスをカバーする台数を導入しています。

(町 長) 更新時期であるということもありますが、皆さんの意見をお聞きし、大変有意義な事であると思えます。ただ子供達の健康への配慮、先生達も導入するからには大いに活用して成果を挙げてもらいたいと思えます。

(事務局) 効果の検証が科せられるということは、先生達にも伝えてあります。

(教育長) そこで費用対効果を高めるために、先ほど芦澤先生の話の中にありましたが、支援員という体制を整えていきたいという構想も持っています。そういう事に明るい人がおりまして、先生方につきっきりで教えていただくということです。

(事務局) 中央から派遣してもらおうと大変費用もかかりますので、いかにお金をかけないで効果的な配置というものを検討していきたいと思います。

(町 長) 毎回教室にいて支援してもらおうということですか。

(事務局) 使い始めにはそういう状況もあるかもしれませんが、放課後を活用して先生方への研修をと考えております。1時間ずっと使い続けるという事ではなく、授業の導入部分であったり、まとめの部分で使ったりというふうにする想定です。そういう授業の組立についても、支援員さんに指導していただければと考えております。

(教育長) 予算に絡むことですので、町長にも今後よくご検討いただければと思います。次に生涯学習の関係で梶原課長お願いします。

(梶原課長) 当初予算要求の概要説明。(施設改修、南部氏資料館建設等)

(町 長) アルカディア体育館吊り天井の改修はやります。それは公言しております。1億円弱ぐらいの見通しだそうですがその財源は。

(梶原課長) 交付金にするのか起債にするのかは、これから12月に国の方針が決まりますので、それを受けて決めます。そしてその道筋がつけば、来年度には設計、施工と考えております。今年度12月補正にはその耐震診断を予定しております。

(町 長) これは時間があまり無いですよ。鳥取の例もありますが、いつ災害がおきるかわかりませんから。

(梶原課長) 来年秋口までには設計を済ませて、センターのシーズンオフという訳ではありませんが、10、11月福祉健康まつりが終わった後に施工に入ると考えております。

(町 長) 南部氏を紹介する施設を道の駅に作る計画はやります。資料は素晴らしいですし、まあレプリカをどうするかという問題はありますが、これはやります。あとはきちっとした計画を持ってきてもらってということです。ただそんなに慌てなくてもと言いますか、中部横断自動車道の建設が予定よりも2年ぐらい遅れます間違いなく。そんな想定をしております。計画は早めに出してもらおうに越したことはありませんが、これは間違いなくやります。

(教育長) 大きな予算も絡んでいますので、教育委員会としても町長にご理解いただけるようこの項目を設けさせてもらいました。ありがとうございました。

(4) その他

(教育長) その他ということで皆さんの方から何かありますか。特になければ時間のこともありますので、これで閉じさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

6 閉会 入月委員

(要旨) 色々な議論がありましたが、教育実行創生会議の提案をみましても地方創生に向けて、教育がエンジンとなって推進して欲しいという内容のことが出ておりました。町長の最初のお話しの中にもありましたが、住み良い町にするために町外から南部町に入ってくる人達を迎えるということを考えた時に、やはりその基盤になる1つが教育環境だと思います。そのために充実した議論を重ねていくのが、この会議の使命かと思っております。本日はありがとうございました。